



【指導事例 1】

1 主 題 「未来を創る」〔真理の探究、創造〕

2 ねらい

真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努める心情を育む。

3 教材について（教材の生かし方や人物像）

本教材は、自分にしかできない音楽を追究し続けた伊福部昭の功績に触れることを通して、困難を乗り越え、真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努める心情を育むことをねらいとしています。

前半では、父の転勤の関係で様々な土地で過ごした伊福部昭が小学生時にアイヌの人たちとの出会いから、音楽は構えてつくるものでなく自発的に生まれるものであるという音楽の特性に気付いたところの様子について触れています。

後半では、アイヌの人たちの民族音楽・伝承古謡に影響を受けた伊福部昭が、真の音楽について独学で追究し、作曲コンクール受賞を機に、海外から評価されていく様子について触れています。

指導に当たっては、自分にしかできない音楽を追究し続けた伊福部昭の生き方について多面的・多角的に話し合うことを通して、真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めることについて深く考えさせることが重要です。

4 展開例—①「伊福部昭の生き方を通して、真理を探究して新しいもの生み出そうとすることの大切さについて考える展開」

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・予想される子どもの反応	・指導上の留意点（■評価）
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 創造に必要なものを考える。 ○ 現代社会の中で「新しいもの」をつくり出すために必要な力は何だろうか。 ・知識（基礎学力・情報処理など）が必要だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材「日本作曲界の開拓者」を読み、話し合う。 ○ 昭は、アイヌの人たちとの出会いから、音楽をどのように捉えましたか。 ・大げさなことではないもの。 ・自発的に生まれてくるもの。 ◎ 「真の美しさを発見するためには、教養と呼ばれるものを否定する位の心がまえが必要です。」とありますが、昭の言う「心がまえ」とは何だと思いませんか。 ・新しいものをつくりだすために、既存のものが正しくないかもしれないという疑問をもつこと。 ・何事も真実を求め続けるためには、従来の思考から離れる頭の柔らかさが必要だ。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ● 「真実を求め続けること」について自分との関わりで考える。 ○ 疑問や問いを探究し続けることはなぜ大切なのだろうか。 ・新しい見方や考え方が生まれるから。 ・自分の生き方をより豊かにすることにつながるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昭が真の音楽を追究しようとしたことに対する思いを話し合い、人間理解を深めさせる。 ・自分にしかできない音楽を追究し続けた昭の生き方について多面的・多角的に話し合い、価値理解・他者理解を深めさせる。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・真理の探究について、自分の人間としての生き方を振り返り、自己理解を深めさせる。 ■ 真理を探究して新しいものを生み出そうとすることの大切さについて、自分との関わりで、考えを深めている。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師の説話を聞く。 ※真実を求め続け、真理を探究して新しいものを生み出そうと努める人や、現在努力している人の取組、又は教師自身の経験などについて話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人が生まれながらにもつ真実を求め続ける心が自分の中にもあることを自覚し、真理を探究して新しいものを生み出そうと努める心情が育まれるようにする。

【指導事例 2】

1 主 題 「未来を創る」〔真理の探究、創造〕

2 ねらい

真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努める心情を育む。

3 展開例—②「伊福部昭の生き方を通して、探究心を支えたものについて考える展開」

主な学習活動

(1) アイヌの人たちの民族音楽・伝承古謡に触れて、昭の音楽に対する考え方は、どのように変わりましたか。

- ・音楽は、自発的に生まれてくるものだという考え方になった。
- ・音楽は、己の心境に任せてつくるものという考え方になった。
- ・自分にしか書けない音楽をつくりたいと考えるようになった。

(2) 昭の音楽が、周囲に受け入れられず、周囲の人が、昭を「異端児」扱いしたのは、なぜでしょうか。

- ・これまでの音楽の概念から外れていたからだ。
- ・周囲の人が追い求める音楽とあまりにも違うからだ。
- ・新しい音楽に対する拒絶感から受け入れられなかったからだ。

(3) 日本で演奏されなくても、作曲を続け、日本に根ざす作品世界を独学で追究した昭を支えたものは何だと思いますか。

- ・アイヌの人たちの民族音楽・伝承古謡から得た、音楽の美しさへの感動だ。
- ・周囲に批判されても、自分の信じる音楽を追究していくという強い信念だ。
- ・既存の概念にとらわれ過ぎない柔軟な心だ。

活用場面例（道徳科以外での活用事例）

■ 社会科

公民的分野の現代社会と文化の特色の学習において、本教材を活用し、日本の作曲界を牽引した昭の生き方に触れることを通して、文化の意義や影響について理解し、我が国の伝統文化についての関心を高めることができるようにする。

■ 総合的な学習の時間

地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に関わる探究課題を設定した学習において、本教材を活用し、昭がアイヌの人たちの民族音楽に影響を受け、真の音楽を追究しようとした生き方に触れることを通して、よりよい郷土の創造に向けた人間としての生き方について考えることができるようにする。

■ 特別活動（学級活動）

学級活動の社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成に関する学習において、本教材を活用し、人生をかけて真の音楽を追究した昭の生き方に触れることを通して、学ぶことの意味や人間としての生き方について考えることができるようにする。

■ 家庭や地域との連携

学級通信等において、本教材を活用した学習の様子を家庭に伝えるとともに、家族と共に人間としての生き方や将来について話し合ってもらおうよう依頼し、自分の興味や関心を基に真理を探究して新しいものを生み出そうとする意欲を高めることができるようにする。